

# 特集 日本におけるヘイトスピーチ

## 人種差別とヘイトスピーチ



11月20日東京集会（松本治一郎記念会館）

日本では、部落、アイヌ民族、在日コリアン、移住者、琉球・沖縄の人びと、性的マイノリティなど、マイノリティ集団に対するヘイトスピーチや公人による差別発言が多発している。この2年あまりを振り返っても、京都朝鮮第一初級学校に対する差別街宣事件（2009年12月）や水平社博物館（2011年1月）に対する差別街宣事件が起こり、どちらの事件においても犯行者である在特会\*は刑事裁判では有罪判決、民事裁判では敗訴した。朝鮮初級学校に対する差別攻撃は学校側が現場をビデオ撮影していたため、翌年（2010年）2月の人種差別撤廃委員会（CERD）日本報告審査の会場で、私たち NGO は CERD 委員にそのビデオを上映して見てもらった。どの委員も「なぜこのようなことが放置されているのか？」と驚いた。

世界をみても、たとえばヨーロッパでは極右勢力によるロマ排撃がエスカレートしており、そうした現場ではマイクをもって街宣行動をする極右集団の姿がみられる。ヘイトスピーチは暴力による攻撃につながり、事実、ハンガリー、スロヴェキア、ルーマニアなどの国々では、殺されたり、家を焼かれたり、居住地を追い出されるなど、深刻で重大な被害が出ている。こうした状況のもと、今年の8月28日、CERDは人種主義的なヘイトスピーチに関するテーマ別討論を開催した。この問題は国際的にも大きな関心を集めている。

IMADR-JC は人種差別撤廃 NGO ネットワー

クと協力して、日本で起きているヘイトスピーチの事件の情報を集め、CERDのテーマ別討論に向けて文書で提供をした。その内のひとつである、公人による差別発言の報告を本特集の記事のひとつとして7ページで紹介する。さらにはこうした事件を踏まえながら、ヘイトスピーチの問題に関する集会を東京（11月20日）および大阪（11月24日）で開催した。その目的は、日本においてはまだ共通した認識が十分ではない「ヘイトスピーチ」の問題について被害者であるマイノリティの視点から捉え、問題意識を共有し、その対処について議論することであった。さらには、その根元である人種差別の撤廃に何ら政策をもたない国に対して、集会の総意をまとめてアピールをだすと同時に、社会に「ヘイトスピーチ」は深刻な差別であることをアピールしていくことである。また、実態を把握・記録して、国連における議論や審査の資料となるよう積み上げていくことも重要な目的である。

本特集では、大阪集会の報告、公人による差別発言（国連提出資料のひとつ）、そして国連における最近の議論について記事を紹介する。

東京集会および大阪集会では以下のプログラムにあるように多くの方々からご報告をいただいた。本特集ではその一部しかご紹介できないことをお許しいただきたい。ご報告をいただいた方々にあらためてお礼を申し上げる。

### 東京集会 11月20日（敬称略）

#### ■現場からの報告

◆在日朝鮮人に対するヘイトスピーチ 金優綺（在日本朝鮮人権協会）

◆セクシュアルマイノリティに対する公人の差別発言

島田暁 / 藤田裕喜（レインボーアクション）

■報告：日本におけるヘイトスピーチ 現状と分析 前田朗（東京造形大学教授）

■報告：国連でどのようなことが議論されたのか 白根大輔（IMADR ジュネーブ事務所）

■意見交換 & 質疑応答

■集会アピール案の提案

司会進行：小森恵

### 大阪集会 11月24日

■国連でどのようなことが議論されたのか 白根大輔（IMADR ジュネーブ事務所）

■日本の現状と外国の現状 師岡康子（外国人権法連絡会）

#### ■現場からの報告

◆「水平社博物館前差別街宣」 伊藤満（部落解放同盟奈良県連合会）

◆「京都朝鮮第一初級学校への在特会による差別行為をめぐる裁判」 富増四季（弁護士）

◆公人によるヘイトスピーチ・私人による部落差別扇動 藤本伸樹（ヒューライツ大阪）

■コメント 古屋哲（すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク）

■質疑応答・意見交換

■アピール提案

司会進行：岡田仁子（ヒューライツ大阪） 金朋央（コリア NGO センター）

\* 在特会

「在日特控を許さない市民の会」

\*\* 両集会とも IMADR-JC と人種差別撤廃 NGO ネットワーク（ERD ネット）の共催。

大阪集会はアジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）の協力を得た。